

露頭の風景 写真家の視点

斉藤 麻子

目には見えないものを写真に写すというのは不可能なことかもしれませんが、長い年月を経た露頭を撮影することによって、見えない“時間”というものを収められるのではないかと思っています。

さて写真は、北武断層のちょうど真上あたりと思われる地点で撮影しました。最近メディア等で、今後起こりうるであろう首都直下型地震がよく取り上げられるようになり、活断層という単語も耳にする機会が増えました。活断層地図を見てみますと、地図上に活断層を示す線が幾本もひかれ、こんなにも多くの活断層の上で生活していることに改めて驚かされます。しかし地図で示された活断層の上

を実際に歩いたとして、そこから見える風景とは何か特別なものでしょうか。町であれば多くの場合、住居や店舗が立ち並び、道路や線路が走る、ごくごく当たり前の風景が目には映るはずですが、目には見えぬが確かに存在しているもの、それ故普段あまり意識していないもの、そのような活断層を写真に写したいと思った時、今回の撮影場所を見つけました。因果関係は分かりませんが、奥のブロックが大きく崩れかかっています。見る側の想像力を少しばかり拝借することにより、見えないものを写すことの可能性を示唆してくれた場所でした。

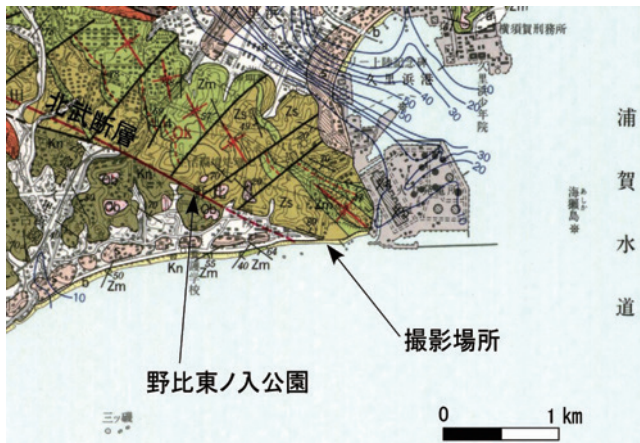
地質屋の視点

及川 輝樹

3月号に引き続き三浦半島の露頭です。写真手前の露岩をつくるのは三浦層群（安房層群ともよべれます）逗子層の砂泥互層です。逗子層は、海溝と陸地の間の盆地である前孤海盆に後期中新世から前期鮮新世の約700～360万年前に堆積した地層です。

都市圏活断層図では、北武断層はこの露岩の奥のコンクリート擁壁の所を通っていると推定されています。この断層は右横ずれの変位をする活断層で、周囲に平行に走る断層とあわせて三浦半島活断層群を形成する断層です。三浦半島活断層群は最大でM7クラスの地震を引き起こすと考えられており、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震

により地震発生確率が高くなっている可能性がある断層の一つでもあります。また、6～7世紀の間に北武断層の活動により地震が起きたことがトレンチ調査から明らかになっております。このように防災上注意が必要な活断層のため、北武断層が通過する地域では、国内では珍しく土地利用を工夫しています。それは横須賀市野比4丁目地区で、横須賀市の指導と開発業者の努力により、断層周辺の土地を宅地ではなく公園（野比東ノ入公園）として開発しました。なお、写真では断層が通る部分のコンクリート擁壁が崩れていますが、崩れ方からみて断層活動と関係あるものではないでしょう。



5万分の1地質図「横須賀」（江藤ほか，1998）の一部に加筆。Zs, mが逗子層。

文献

江藤ほか(1998)横須賀地域の地質。地域地質研究報告(5万分の1図幅)，地質調査所，128p。
 地震調査研究推進本部「三浦半島断層群」，http://www.jishin.go.jp/main/yosokuchizu/katsudanso/f037_miura-hanto.htm
 地震調査研究推進本部「東北地方太平洋沖地震後の活断層の長期評価について」，http://www.jishin.go.jp/main/chousa/11sep_chouki/chouki.pdf
 増田・村山(2001)地学雑誌，110，980-990。
 高橋(2008)日本地方地質地誌3 関東地方，日本地質学会編，朝倉書店，187-193。